

# ひかりのこ

2月園便り

聖ミエル幼稚園  
2019年1月25日

月主題：響き合う

## 『年中行事』

聖ミカエル幼稚園では、1月には書初めとおもちつきを、2月には節分、3月にはお雛祭りを行います。キリスト教の幼稚園なのに、と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、日本で昔から行われてきた季節ごとの行事を、やはり大切にしたい、という私たち保育者の思いがあるからです。

わが家も行事をととても大切にしている家庭でした。とにかく私が行事好きなのです。以前園だよりで紹介したお年玉授与式はもう25年ぐらひは続いています。今年はお年玉をもらえたのは、まだ大学生の次男だけでしたが。

お年玉を渡す前に、私たち夫婦と3人の子どもたちが向き合って正座して、それぞれ今年の抱負を述べ合います。それからやっとお年玉の授与。渡す前に夫の「そもそもお年玉とは・・・」というんちくが始まります。子どもたちは足がしびれるのをじっと我慢して夫の話聞くのです。私はその子供たちの表情が面白くて、いつも一人で吹き出していました。

書初めは、子どもたちが、1歳ぐらいからやっていました。3歳だった娘は「みかん」の「ん」が鏡文字になっていましたが、大きくかけました。1歳だった次男はロボットを書初め用半紙に大きく書いていました。お兄ちゃんは、小学校の宿題の決められた文字を書いていたと思います。手も顔も墨だらけになりながらも、楽しい我が家の習わしでした。

このような家庭の行事は、大人がちょっと頑張らなければ、なくなってしまう。お父さんやお母さんが、子どもたちを喜ばせるために、色々な準備をしてくれることが、子どもたちにはうれしいのです。

お次は「節分」。我が家も、もう大人になってちょっと乗りの悪い子どもたちを何とか集めて、盛大に行いたいなあ、と画策中です。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「最期のときに」

今月、一ヶ月間危篤状態が続いていた父が90歳で亡くなりました。危篤の知らせが来た時、私は緊急洗礼の用意をして病院に向かいました。緊急洗礼とは、いろいろな事情で教会に来ることができなかった人が、自宅や他の場所で洗礼を受けることをいいます。私は、もしもの時は父に洗礼を受けてもらうことを親戚や兄弟に前もって承諾をもらい、本人にも伺いを立てていました。もっとも父は「分かった」とは言ったものの、何のことやら見当がついていなかったのだと思います。こうして父は生涯一度も教会に行かず、一ヶ月だけベッドの上でクリスチャンとして過ごし、天国に行きました。それで良かったのだと思います。

教会の葬儀は、華やかな祭壇は設けず、とてもシンプルです。なぜなら、葬儀の主人公は亡くなった本人であり、大切なのは本人と神さまとの関係だからです。神さまの愛に包まれて天国に行くわけですから、もうそれで充分、美しく装われているのです。参列者は感謝と賛美をもってそれを見守るだけです。

終わりよければすべて良しといえます。どんなに人生が苦渋に満ち、困難の連続だったとしても、最期が平安であれば、そして、いい人生だったと感謝の思いで旅立つことができれば、これにまさる幸せはありません。教会の伝統に「メメント・モリ」（死を想え）という言葉があります。私たちが終わりのある人生を歩んでいるという自覚があればこそ、人生は逆に豊かになるのかも知れません。

チャプレン 司祭 下澤 昌